キメる、マナーの場面 ～シチュエーション・マナーのエッセンス

パーティ・マナー

はじめまして。今まで、ありとあらゆるパーティに出席して参りました イメージコンサルタントの五十嵐かほるです。
海外でのパーティに、大使館及び大使夫人主催のセレブなパーティ。
企業の主催する商業ベースのパーティから、手作り感溢れる、温かい・ホームパーティ等に至るまで、
様々なジャンルのパーティでの失敗と経験から知り得たことを皆さんにお話しいたします。

Text / Kaoru Igarashi / Illustration / Misaki Hirata

最近にパーティに招待されたら、何をお祝いするのか、どういった趣旨なのか、パーティのコンセプトやテーマをしっかり理解して自然にふるまうことが大切です。もてなしの趣向を素直に受けとめる気持ちで、一つの目的を参加者全員が楽しむこと、そして招く側に求められるのは、ゲストに対する愛情といえます。ゲストに秘をかかせることのないように、前もってパーティの趣旨やパーティのスタイル、服装（ドレスコード）をきちんと伝えること、また、できればパーティのなかに、なにか一つサプライズがあると喜ばれる確率が高いようです。

私の経験では、ケーキのなかに宝石を隠し、ケーキを皆で分けて、「自分のケーキのなかに宝石が入っていたら大当たり！」とか、またあるときは、そのケーキの「生地になにを練りこんで作ったのか」を当てるゲームだったり（そのときは、「スッポンの卵！」が、鶏卵の代わりに練りこんでありました）、最近では、友人の婚約をお祝いするパーティだったのに、ケーキと花束の登場で、私の誕生日（そのパーティの五日後でした）も祝っていただけたという、涙が出るほど嬉しかったサプライズもありました。なにかのパーティの日に、近いバースデイの方を皆でお祝いするのも、とても喜ばれますので、サプライズにはオススメですね。

○

パーティでは、なによりも会話が大切です。ふるまわれるお料理にも出席者のファッションにも関心をもって、同じシチュエーションを味わっている以上、初めてお会いする方でも、話しかけたり、褒めあったり、皆の話に加わってパーティの成功に貢献することが、招く側の愛情に対するお礼だと思います。

「マナー」というと「～してはいけない」「～すべし」といった堅苦しい印象を思い浮かべるかもしれません。しかし、マナーとは、そのような規則などではなく、「楽しむ為のルール」なのです。私自身にとっても常識・非常識の線引きは難しいところではありますが、「相手を不快な気分にさせない思いやり」さえ忘れなければ、心配することはありません。後は、楽しむに尽きます。

それでは、ここでホームパーティにお招き頂いたときのマナーについてお話いたします。

コートや帽子、手袋、マフラーは玄関で脱ぎ着をしてください。なぜかというとコート類のことを「道中着」といって、読んで字の如く、軍のなかで着るものではないからです。リビングでコートを脱ぎ着しているあなたをご想像いただければ、なんとなくスマートでないことがおわかりになるでしょう？

もしなにかプレゼントをするなら、皆で分けることのできるものや楽しめるもの、たとえばお花やお菓子、お酒などが喜ばれるでしょう。冷蔵庫に入りきらない大きな食べ物は、なるべく事前にお届けします。お花、果物、野菜などは、鮮度を考えてできるかぎり玄関先でお渡しし、焼き菓子や加工品は、中まで持って入って先方にお渡しください。パーティに招かれたら、「なにか持っていかなければいけない」とばかり考えずに、パーティに出席することが相手へ一番のプレゼントだと思って、後日あらためてインテリアに合う素敵なものを送ったり、自筆でお礼状を送るのでも構わないでしょう。

一方で、招く側に立ったときに注意が必要なのは、外国の方がゲストにいらっしゃる場合などに振舞うお料理です。ベジタリアンの方や、宗教上召しあがれないお肉がある場合は、お料理に「Veg」「Pork」と一言書いたカードを添えて相手にわかるようにするとよいでしょう。また、食べ物のプレゼントをいただいたら、パーティ終了間際に「お持たせですが……」といって、皆様に出してお召しあがりください。

パーティでは、「茶事の心」（一期一会）の出会いを大切にしてください。また、異性に対して魅力をアピールする機会でもあります。ご夫婦や恋人と一緒にパーティに行く場合は、非常にさりげない統一感（たとえば、ポケットチーフの色とワンピースの色を合わせるとか）があると素敵に映ります。いまの自分に「磨きをかける」ためにも、招いてくださった方のためにも、美しく装うことに手を抜かないで、いまそこにある出会いを思いっきり楽しんでくださいね。

五十嵐かほる / Kaoru Igarashi
ノイ・ムジーク代表。イメージコンサルタント。企業研修講師、元・全日空国際線客室乗務員として、主にファーストクラス、VIPフライト、外資航空会社との共同運航を担当。講演会、モデル、ファッションショーやビジネスセミナー等の司会、ファッションプロデュース等を経て現在に至る。企業や活動のイメージ作り（プロデュース）や社員・スタッフ研修を中心に手がけ、個人へのブランディングを取り入れたイメージコンサルティングが好評。